

登録医ニュース

## メタセコイア

第46号  
2018.9

編集・発行/東北医科薬科大学病院 医療連携室

〒983-8512 宮城県仙台市宮城野区福室1丁目12番1号 Tel(022)259-1221(代表)  
Tel(022)388-9593(医療連携室直通) Fax(0120)25-9121(医療連携室直通)  
Eメールrenkei@hosp.tohoku-mpu.ac.jp ホームページhttp://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp副病院長就任の御挨拶  
- 東北医科薬科大学病院の現状と今後 -

副病院長 総合診療科科长 ふるかわ かつとし  
古川 勝敏

登録医の先生方におかれましては、常日頃より大変お世話になっております。この度2018年4月に本院の副病院長を拝命いたしました古川勝敏です。私は、2016年4月に本学に医学部が新設されたと同時に入職し2年数か月しか経っておらず、まだ慣れない面も多々あるのですが、登録医の先生方との連携を深め、これからもより良い医療の提供に向けまして、鋭意努力して参りたいと思っております。

以前の東北厚生年金病院の時代に比べ、建物自体は変わっておりませんが、現在の本院の役割、業務内容は大きく変化を続けています。現在、本院において東北医科薬科大学の薬学部、医学部の学生のみならず、多くの近隣の看護学生も学生実習に積極的に参加しています。また、私が所属します総合診療科を含め形成外科、脳神経外科等、診療科の数も着実に増えています。2018年春には、大学医学部の教育研究棟が完成しましたし、2019年春より、待ち望んでいた新病棟も稼働いたします。大きな変革の中で、我々も困惑がないわけではないですし、登録医の先生方に御迷惑おかけすることもあるかもしれませんが、とは言え、病院の職員全員、このエリアの住民の皆様の健康を守るという強い意志を持ち、昼夜を問わずそれぞれの業務に全力を傾けております。今後も、登録医の先生方の御協力を仰ぎ、全身全霊で努力を続けていきたいと思っております。

さて、私の所属いたします総合診療科は、2016年4月よりメンバーを大幅に増員し診療に当たっています。初診時に問題のある臓器、疾病が特定されない患者さん、また問題が多臓器、多疾患にまたがる方の診療を積極的に行っています。全国の病院の総合診療科において、外来のみの診療に限っているところも少なくありませんが、当科においては、きちんと入院体制をしき、入院が必要な患者さんにおいては適切な入院治療を遂行しています。

また、本院は2016年夏より認知症疾患医療センターに認定されており、現在私はそのセンターも担当させていただいています。登録医の先生方より、数多くの認知症患者さんやその疑いの方々を紹介していただいております。総合診療科のみならず、精神科、神経内科を含めた3科で対応をしております。超高齢社会の現在において、認知症診療は最も重要な課題の一つとして今後も認知症診療に貢献していきたいと思っております。

本学の医学部新設も含めて、現在の医療は日々変化、進歩を続けている真ただ中でしょう。これらの激動の中、登録医の先生方も戸惑われることも多いかもしれません。このような状況下で我々東北医科薬科大学病院の医師、医療スタッフは少しでも登録医の先生方のお力なればと思ひ、精進を続ける毎日です。どうかこれからも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。

# 地域医療における不整脈診療体制を充実させるために

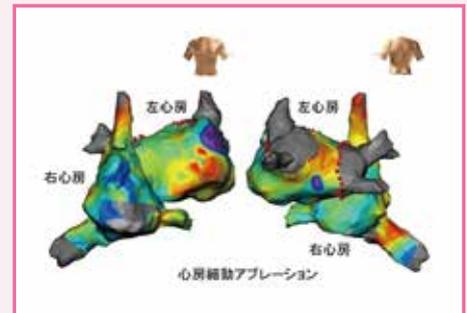


循環器内科 准教授 <sup>くまがい こうじ</sup> 熊谷 浩司

日頃から、登録医の先生方には、当院の地域医療連携にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。この度、先生方からご紹介いただく循環器疾患の特に不整脈疾患の患者さんを担当させていただくことになりました。簡単な略歴を申し上げますと、平成 8 年に東北大学を卒業、卒後研修後、東北大学大学院に入学、この間、不整脈診療習得のために横須賀共済病院に 2 年間国内留学し、特に心房細動のアブレーションを勉強してまいりました。その後、東北大学病院で講師として不整脈分野の仕事をしておりましたが、平成 20 年からは年間 1000 例以上のカテーテルアブレーション総数を有する群馬県立心臓血管センターにて 10 年間にわたり研鑽をつみ、今年 8 月に当院に異動してまいりました。循環器内科の、主に不整脈の担当として、

小丸教授をはじめ他の医局員とともに一丸となって、地域連携を大切に、各地域からご紹介いただく先生方との交流を深めさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

さて、日頃から先生方が診療されている不整脈についてですが、その診断、治療に関してここ 10 年の間に大きく変わり、より専門性が強くなった感があります。特にカテーテルアブレーション法の進歩が著しく、現在では安全性や有効性が確立し様々な頻脈性不整脈に適用されるようになってきました。高周波カテーテルアブレーションは、心腔内に留置した電極カテーテル先端部位と体表面の対極板間で高周波通電を行い、不整脈の原因となる心筋組織を凝固壊死させるものであります。特に上室性頻拍である心房頻拍、房室結節リエントリー性頻拍や WPW 症候群に伴う房室リエントリー性頻拍、通常型心房粗動、特発性心室頻拍・期外収縮などに対しては、高い根治率と薬物からの解放により治療戦略上第一選択となっております。また以前は、治療が困難であった心房細動や左房起源の心房頻拍に対しても経心房中隔的に左房にアプローチし、ナビゲーションシステムの使用により複雑な頻拍回路が視覚化され、カテーテルのコンタクトフォースシステムにより成功率があがり、全国的にも症例数が非常に増加しております。また、デバイスに関しましても、ペースメーカーも多機能となり、心室細動や心室頻拍に対する植え込み型除細動器(ICD)や、重症心不全に対する心臓再同期療法(CRT)、皮下植え込み型除細動器、リードレスペースメーカーなど発展を遂げております。



当センターにご紹介いただく際の対象として、全ての頻脈性・徐脈性不整脈をカバーしております。不整脈であれば何でも結構ですので、診断、適応に少しでも悩むようであれば、何はともあれご紹介いただければと思います。当科で必要な検査を受けていただいた後、患者さんが納得されるよう丁寧に説明させていただき、患者さんにとって最適な治療方針を決めさせていただきたいと思っております。他院にない特徴として、治療に苦慮する持続性心房細動に対する治療戦略があります。肺静脈隔離後(赤点)、周波数解析から持続原因部位(紫色)を同定し、効率よく加療する、というもので、今後力を入れてまいりたいと思っております(図)。長期間持続している心房細動で、慢性心不全症状や動悸症状などに悩まされている患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。

また、CRTが必要な心不全、突然死が問題となるブルガダ症候群などの患者さんもぜひご紹介いただければ幸いです。地域医療連携として、当院での治療が終わった後、開業医の先生方をお願いしているフォローアップについてですが、ご紹介いただいた先生方には、検査結果、手術結果などの経過をお知らせするとともに、患者さんをお返すする方針としております。心房細動に関しましては、アブレーション後、3、4か月程度再発などの有無の経過を診させていただいた後、お返すするようにしております。患者さんにとって最も身近なかかりつけの先生方との連携により、いつでも最適な医療を患者さんに提供できるよう心掛けておりますので、何か変わったことやご不明な点がありましたら、いつでもご遠慮なく連絡していただければと思います。診療情報提供書上だけでなく、地域の先生方からのご意見やご指導を賜り、積極的に活動していきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

# 東北医科薬科大学病院 外来化学療法センター・ ニュースレター 第2号

## 当院のがん薬物療法における薬剤部の役割について

薬剤部副薬剤師長 さいとう ゆうこ  
齋藤 裕子

がん化学療法は、新薬の開発や治療法の進歩が著しく、複数の分子標的治療薬や抗がん薬を使用した複雑な投与方法が行われています。また、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬では、殺細胞性抗がん薬では見られなかった副作用が発現する可能性があり、医療関係者が副作用防止対策を正しく行うとともに患者さんが副作用を含めたご自身の治療を理解することも重要となります。

薬剤部では、より安全で適正な化学療法を提供するために、化学療法担当に専任として4名の薬剤師を配置しています。また、高度な知識と経験を持つがん薬物療法認定薬剤師1名とがん専門薬剤師1名が化学療法のサポートをしています。専任の薬剤師の業務として、①レジメンの登録と管理、②化学療法処方箋の確認、③抗がん薬の無菌調製、④外来化学療法センターでの薬剤指導を行っています。

### ①レジメンの登録と管理

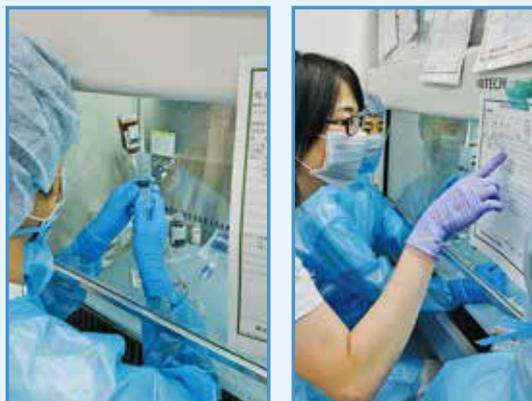
抗がん薬は治療に適する血中濃度と副作用が発生する血中濃度が近く使い方を誤れば大きな事故を招くため、抗がん薬の投与量、休薬期間、また副作用を抑えるのに必要な支持療法を時系列順に規定したレジメンに従って投与が行われます。当院では、がん化学療法レジメン審査委員会が承認したレジメンを使用し、薬剤部は委員会の事務局としてすべてのレジメンの審査や登録に関わっています。

### ②化学療法処方箋の確認（抗がん薬適正使用の確認）

処方されたレジメンが、病態にあった適切なレジメンか、体表面積や体重や腎機能等から適切な投与量か、検査値等が投与基準に合っているか、内服薬を含め使用している薬剤と相互作用に問題はないか等を事前に確認しています。疑問点があれば、直接医師に確認を行い、安全に化学療法が実施されるような体制をとっています。

### ③抗がん薬の無菌調製

抗がん薬は正確な秤量や特別な溶解方法など厳密な調製が必要です。調剤過誤を防止するため、秤量した抗がん薬を2人の薬剤師が確認しています。現在は目視と口頭で確認していますが、今後は重量監査システムの導入が決まっておりより安全な調製が可能となります。また、混合している薬剤師自身の曝露を防止するために安全キャビネットや閉鎖系接続器具（ファシール®）を使用し、正しい調製手技を習得した薬剤師が調製しています。



化学療法調製室での調製

#### ④外来化学療法患者への薬剤指導

安全に化学療法を実施する上で、患者さんご自身の治療への理解は不可欠といえます。新しい治療が始まったときには、抗がん薬の投与スケジュール、薬品名、効果、副作用などの説明を行います。2回目以降の面談では副作用をモニタリングし、必要であれば医師へ副作用報告や支持療法の処方提案を行っています。

当院では、化学療法件数が増加しており、現在は月間約300件（2018年7月）の化学療法が実施されています。患者の皆様安心して治療を受けていただくために、多職種スタッフと連携して安全な医療の提供に向けてさらに積極的に取り組んでいきたいと考えています。



外来化学療法の薬剤指導で使用している患者用指導せん

#### 【外来化学療法室の拡張工事が始まりました】

これまで、外来化学医療室は9床で運用してまいりました。2018年8月3日より、その病床を15床に増床するための拡張工事が開始となりました。現在、治療を受けられている皆様には、騒音や仮囲いによるスペース縮小でご迷惑をお掛けしております。当院のがん薬物療法を行っている多くの診療科にとって念願の増床計画です。ますます、利便性を高めて充実したがん診療を提供できるように体制を整えていきたいと考えております。

(文責 下平)

#### 編集後記

外来化学療法センター・ニュースレター第2号をお届けすることができました。今回はがん薬物療法に携わるチーム医療の中で薬剤師さんの視点から投稿していただきました。齋藤裕子先生を中心としてがん薬物療法を担当して頂いている薬剤部チームは外来化学療法センターの事務局としてレジメン管理をするだけでなく、処方監査・疑義紹介・調剤、患者指導まで、がん薬物療法を行う上であらゆるステップで欠かせない存在です。本稿により当院の薬剤部の活動をご理解頂き、近隣の医療施設の皆様と良い連携を構築していければ幸いです。今後ともよろしくごお願い申し上げます。

(外来化学療法センター長 下平秀樹)



薬剤部化学療法担当スタッフ

# 医療連携室からのお知らせ

## 皮膚科医師着任のお知らせ

10月1日より川上民裕（かわかみ たみひろ）医師が皮膚科教授として当院に着任いたします。翌週10月9日には宮部千恵医師が赴任し2人体制となり診療の充実を図ります。

なお、近隣の先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、9月の皮膚科外来診療は休診とさせていただきますのでご理解の程よろしくお願い申し上げます。

### 【10月からの皮膚科診察日】

診察開始日 10月4日（木）

■診察日 月曜日～木曜日

■受付時間 8時30分～11時30分

紹介状をご持参の上、受付時間内に直接お越しください

（注意：現在皮膚科の予約は医療連携室では行っておりません）

## 地域連携のつどい

東北医科薬科大学病院総合医療支援センター主催の「地域連携のつどい」を平成30年7月20日（金）午後7時よりホテルメトロポリタン仙台にて開催いたしました。

地域連携のつどいは登録医の先生方との交流を目的に毎年開催しております。

現在、当院の登録医師数は374名で、出席者は院内外あわせ総数は214名でした。

はじめに、高柳元明理事長、近藤 丘病院長の挨拶に続き、第1部の診療紹介と特別講演は佐藤賢一総合医療支援センター長が座長をつとめ、4月から新設した脳神経外科佐々木達也科長、形成外科高地 崇医師からの診療科紹介を行いました。特別講演では腓腫瘍について肝胆膵外科片寄 友科長、消化器内科廣田衛久医師から講演がありました。



続いて第2部交流会では登録医代表の山田憲一内科医院 院長 山田憲一様の挨拶に続き、はまぎウィメンズクリニック院長濱崎洋一様の乾杯ご発声後、登録医および関係医療機関の先生方、訪問看護ステーションの方と共に当院の職員を交えての有意義な意見交換の時間を過ごしました。その後当院の医師より各科の診療紹介があり和やかな雰囲気の中で閉会となりました。お忙しい中多数のご参加いただき感謝申し上げます。

なお、来年は7月5日（金）ホテルメトロポリタン仙台において開催を予定しておりますので皆様のご参加をお待ちしております。



交流会登録医代表挨拶  
山田憲一内科医院 院長 山田憲一 様



交流会乾杯挨拶  
はまぎウィメンズクリニック 院長 濱崎洋一 様

## ～新大学病院棟ができるまで 第6回～

### 新大学病院棟Fukumuro New Hospital

2019年1月末の竣工を目指し、現在、新大学病院棟を建設しています。この新大学病院棟は、ハイブリッド手術室、バイオクリーンルームを含め手術室9室のほか、リニアックなど高機能の機器を備えた放射線治療室や画像診断室等を有しており、これまで以上に高度で先進的な医療の提供が可能となります。病床数はICU14床を含め150床で、既存病院と合わせた総病床数は616床となり、名実ともに大学病院にふさわしい体制が整うこととなります。

また、東北医科薬科大学病院に隣接して建設された医学部教育研究棟は、教育エリアと研究・実験エリアからなり、2018年4月より医学部は3年次から福室キャンパスで勉学に励んでおります。



2017.12.7  
免震ピット部分躯体工事作業  
新大学病院棟の基礎工事を行っています。



2018.2.9  
0節鉄骨建方完了・リニアック床躯体工事作業  
新大学病院棟1階の鉄骨工事に着手しました。



2018.3.8  
1節鉄骨建方完了・リニアック遮蔽鉄板取付作業  
引き続き2、3階のフロアまでの鉄骨建方を行っています。



2018.4.27  
2節鉄骨完了・付属棟根切工事完了  
引き続き新大学病院棟の鉄骨建方工事を行っています。